

[外国語]

グローバル社会において、自分の考えを英語で発信できる生徒の育成
ーコミュニケーションを図る資質・能力をはぐくむ第2学年“There is/areの文”の実践ー

藤巻 洋生*

1 主題設定の理由

平成29年3月に次期学習指導要領が告示され、育成を目指す資質・能力として「知識及び技能」の習得、「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養という三つの柱が整理され、各教科等の目標や内容についても、この三つの柱に基づく再整理を図る提言がなされた。また、その育成に当たって、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められることとなった。中学校外国語科においても、急速なグローバル化に対応できるコミュニケーション能力を備えた人材を三つの柱となる資質・能力の観点から育成していくことが必要となってくる。

しかし、平成28年に出された文部科学省の外国語ワーキンググループにおける審議のとりまとめでは、「中・高等学校においては、文法・語彙等の知識がどれだけ身に付いたかという点に重点が置かれ、外国語によるコミュニケーション能力の育成を意識した取組、特に「話すこと」及び「書くこと」などの言語活動が十分に行われていないことや、習得した知識や経験を生かし、意識した言語活動が十分ではないこと、読んだことについて意見を述べ合うなど、複数の領域を統合した言語活動が十分に行われていないことなどの課題がある。」とされている。

もちろん教科書には発展的・統合的な活動が用意されており、各レッスン等の最後に載せているものも多い。しかし、その発展的課題は、生徒の実態に即していなかったり、学習の自然な流れに沿った活動でなかったりすることがあり、教科書通りに指導を進めていても、生徒にとって知識や経験を生かしたコミュニケーション活動にならないのが実際であると考える。

このような考えを踏まえ、次期学習指導要領の「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの資質・能力の育成に向けて、生徒の学びの文脈に即しながら英語を使う必然性のある活動を設定することが必要だと考えた。そして、その3つの資質・能力を、実践単元「お気に入りの場所を留学生に紹介しよう」に整合するよう、3の(2)で示すように具体化して意図的に育む場を設けた。また、その資質・能力の育成に当たっては、単元構成の工夫として、次の3つの場面を設定した。

1つ目は、生徒にとって身近なことや親しみのあるものを紹介し合う場面。2つ目は、教科書以外のテキストや情報を用いて多様な文化や価値観に着目させたり、自分と世界を関連付けさせたりする場面。3つ目は、留学生との交流により必然的に英語を話す場面を設定することである。なお、留学生の招致については、本校におけるグローバル人材育成プロジェクトの一貫として、月に一度外国人留学生を招いて英語科を中心として行っている交流活動を用いたものである。平成26年9月から交流活動をはじめ、今では世界18カ国、延べ100人ほどの留学生と交流を行っている。

これらの活動を授業の中で意図的に仕組むことによって3つの資質・能力の育んでいきたいと考え、上記主題設定を行った。

2 研究の目的

単元構成を工夫し、生徒にとって身近なことや親しみのあるものを紹介し合う場面、教科書以外のテキストや情報を用いて多様な文化や価値観に着目させたり、自分と世界を関連付けさせたりする場面、留学生との交流により必然的に英語を話す場面を設定することで、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの資質・能力を育むとともにその効果を検証する。

3 研究の方法と内容

- (1) 単元名 中学校2学年「お気に入りの場所を留学生に紹介しよう」
関連教材 New Crown English Series2, Lesson 4 “sushi”

*新潟大学教育学部附属長岡中学校

(2) 今回の実践で身に付けさせたい資質・能力

資質・能力	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
中2・本単元	There is/are の基本的な文構造や意味を理解し, 活用できる知識・技能を身に付ける	相手を意識して自分のお気に入りの場所を表現したり, 相手の話に応じて即興的に考えを伝えあったりすることができる	自分と世界や他者をつなぐために, 英語で主体的に伝え合ったり, 英語を学んだりしていく

(3) 単元の目標

○There is/areの文構造や意味を理解し, 様々な場面や状況に応じて活用することができる。

○自分の住んでいる地域のお気に入りの場所や事物を留学生に紹介することをとおして, 身近な暮らしにかかわることを表現したり, 即興的にやりとりしたりすることができる。

(4) 単元の指導計画

次	学習内容	○学習課題と・子供の学びの姿	◇教師の手だて
	・ガイダンス	○今まで習ってきた中で「～がある。」の言い方について確認しよう。 ○本単元の目標を理解し, 学習の見通しをもとう。	◇ワークシートで既習の内容を整理する。
1	・存在を表現する新しい表現を学ぼう (2時間)	○There is/areの表現を使う場面と, 意味を理解しよう。 ・“There is/are □…”は, 「新情報が…にある。」ということを説明するときに使う表現だと理解する。 ○友達とお互いの身近な場所について聞き合おう。 ・言語活動を通して表現力を身に付ける。	◇親しみやすいクイズから新出事項を導入し, その後に意味や文構造を説明する。 ◇統合的なタスクを用いて, 技能を高めていくようにする。
	・情報の紹介の仕方を学ぼう①②③ (3時間)	○教科書本文の内容から紹介の方法を学習しよう。 ・町にあるものを紹介する方法を学ぶ。 ・自分の好きなものを具体的に紹介する方法を学ぶ。 ・身近な事柄について例示をまじえて, 相手にわかりやすく説明する方法を学ぶ。	◇教科書本文の学習もタスクとしてとらえ, 何を学ぶかを明確にして活動に取り組む。そして, 留学生との交流という最終タスクに向けて練習を重ねる。
2	・他の国の様子について学ぼう (1時間)	○教科書本文以外の表現から, 国の紹介の表現を学ぼう。 ・ALTの先生について, 出身国の紹介クイズに取り組む。 ・There is/areの表現が本の中でどのように使われているのかを学ぶ。また, 紹介する際にどのように写真を提示しているのかを学ぶ。	◇実際にある国や地域を紹介するときによい表現が用いられているかについて参考になる資料を提示する。
3	・留学生と交流しよう (3時間)	○留学生との会話に向けて今まで学んだことを整理しよう。準備① ・自分が紹介したい場所について英文を作成する。 ・必要な写真等を用意し, より分かりやすい紹介にする。 ○リハーサルをしよう。準備② ・実際に友達に伝えるか練習を行う。	◇英語だけだと情報を明確に伝えるににくいので写真などの補助資料を準備する。また, クラスの友達とリハーサルを行い, 意見やアドバイスをし合う。
		○留学生と交流しよう。 ・学んできたことを生かし, 留学生に自分のお気に入りの場所を伝えたり, 相手のことを聞いたりしよう。	◇生活班である4人班をつくり, それぞれの班で留学生(5人来校)と10分程度は交流できる場を設定する。
4	・単元を振り返ろう (1時間)	○留学生との交流を振り返ろう。 ○単元の内容を振り返り, 今後の目標や課題をもとう。	◇単元の学習のまとめを行い, 学習内容を確認する。

- (5) 対象学級 ○中学校2 学年生徒（1 学級分） 男子17名 女子23名 計40名
 (6) 分析方法 ○事前事後アンケート及び振り返りの自由記述の分析

4 生徒の学びの様子

* ガイダンス

本単元では、There is/are ～. の文が導入される。「～がある／いる」という言い方については、非常に基本的なフレーズであるため、既習事項を活用して表現できる部分が多い。既習の内容を整理するところからはじめ、新出事項の導入の下地を作ることとした。以下のような日本語について、英訳するワークシートを作成し、今まで学習したことで述べられる言い方について確認を行った（％は生徒の正答率）。

I have a sister.	: 私には姉がいる。	(85%)
What do you have in your bag?	: あなたはかばんの中に何がありますか。	(64%)
Where is my bag? - It is on the desk.	: それは机の上にある。	(76%)
Your pen is under the chair.	: あなたのペンが椅子の下にあります。	(67%)
My sister is in Tokyo.	: 私の姉は東京にいます。	(73%)
I was in Nagaoka.	: 私は長岡にいました。	(59%)
Were you at school yesterday?	: あなたは学校にいましたか。	(56%)

今まで習ってきた「～がある／いる」という表現であるが、うまく解答できない生徒もいた。解答後のアンケートの中で、「aやtheを付けるかどうかや、haveやbe動詞の使い分けがよく分からない」「たくさんある言い方の中で、どういう言い方をすればいいのかがあいまいで難しい」という感想が出された。解答後説明を行い、今後の学習に関連する部分であることを伝えた。また、「お気に入りの場所を紹介することができるようになる」という本単元の目標について示した。

このように既習事項を確認し、単元の目標を提示することで、生徒が「新しく習う表現との使い分けをしっかりとしていきたい」や「単元の目標を達成したい」という意識や願いを、単元全体を通じて持ち続けることにつながった。

(1) 1次（1～5時間目まで）

There is / areの文の導入を行った。はじめに、目標文を使って、都市当てクイズ(図1)を行った。ヒントを一文ずつ読み上げ、世界各国の都市を推測するものである。班対抗で行い、正解した後は、その都市についての写真をスライドショーで確認した。この後、どういう場面でThere is / areが使われていて、どんな意味か、またその文構造について確認と説明を行った。新しい情報について聞き手に伝えるという役割について、クイズを通して楽しみながら導入することで、自然な導入になったと考える。また世界各国の都市を導入に使うことで、英語を使う必然性が感じられるものになった。

例①:

There is a hotel in this picture.
 There is an object like a ship on the hotel.
 There is a statue in this picture.
 Last year, students in this school went there.

Answer: Singapore



例②:

There are a big bridge and hall in this picture.
 The shape of the hall is unique.
 You can also see the beautiful sea in this picture.
 Now it is winter in this country.

Answer: Sydney



図1 都市当てクイズの例

その後の時間では、There is/areを用いた言語活動を行った。目標文を使って、友達の家の方にどんなコンビニエンスストアやスーパー、またはおすすめの場所があるかを聞き合うものである(図2)。生徒にとって身近な情報を交換し合うことで、意味のあるやり取りを行うことができた。また、目標文のやり取りに追加して既習事項を用いて情報のやりとりを行うことで、即興的なやり取りを部分的に行うことができた。また、聞いた内容を英語にして書く活動につなげることで、統合的な活動になったと考える。

そして、今後この表現を使って留学生と交流する時間があることを、この時間の最後に伝えた。ある生徒の感想で「There ~ の文の使い方が分かったので、留学生が来る時に役立てたい」とあり、その後の活動に向けて前向きに学習に取り組んでいこうとする生徒も見られた。

その後、この単元に関連する教科書本文の学習を行った。習ったことを生かして、内容理解につなげるとともに、実際の文や対話において、どんな状況でどのように使われているかを学ぶことができた。

3 書も探偵。友達の間で調査しよう!

A: Hi. OO. Where do you live?
 B: I live in Nagasaki.
 A: Is there a convenience store near your house? / Is there a supermarket near your house?
 Are there any good places near your house?
 B: Yes, there is(are). It's (They're)~. / No, there isn't (aren't).
 A: Thank you very much!

Why do you think it's good?
 How often do you go there?
 など聞いてみよう

Name	place	convenience store	supermarket	good places
例) ケン	長岡	○ ローソン	× 原宿がほしい	プール 週に3回行く
友達①	長岡	○ セブンイレブン	○ 原宿	特になし
友達②	三条	○ セブンイレブン	○ マジック	特になし
友達③	日本	ない	○ セイ	おゆうぎ場 公園
友達④	長岡	×	○ マジック	プール

4 友達のことを英文でまとめてみよう。例) There is a convenience store near Ken's house. It's Lawson. He often goes to the Lawson. He buys ice cream there.
 There is not a convenience store near _____ house.
 There is a supermarket near her house.
 It's hirasei

図2 There is/are ~ の言語活動ワークシート

(2) 2次(6時間目) ALTの出身国やある国を紹介する本から生かせるものを学ぼう

この時間はALTから、自分の出身国(カナダ)についてのクイズをThere is/areの文を混ぜながら行った(図3)。生徒は日本とカナダとの文化の違いに興味・関心を示しながら、クイズに参加していた。正解がALTから示されると、驚きの声や歓声が上がることもあり、盛り上がる活動となった。

その後、ケニアを紹介する英語の本(図4)を読んで、どういった内容が書かれているか読み取る活動を行った。ここでも日本との違いに興味・関心を向けながら、自然とその文章の中にあるThere is/areの文を理解し、文章の中での使われ方に意識を向けていくことにつながった。

このように生徒にとって異文化理解を深めながら、言語材料の定着を図る活動となった。また、自分のお気に入りの場所を紹介する英文を作成する上でも大きな参考になったと考える。

Canada Quiz

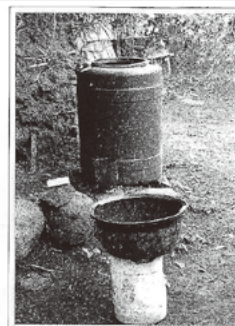
Please write true or false for each statement.

1. There isn't mail delivery service to each person's house.
2. There are high school exams in Canada.
3. There are two official languages in Canada.
4. There is a two to three month summer vacation in Canada.
5. There are Uniqlo shops in Canada.

図3 ALTによるカナダクイズの例



This is a picture of Lake Naivasha National Park. In Kenya, there are many national parks like this. Many tourists travel there to see wild animals. The most famous animal here is the flamingo. We enjoy looking at animals from the car.



Here is some soap and a basin. There is rain water in the big tank. They can get some water with the cup. These things are enough for them to wash clothes.

図4 ケニアを紹介する本より

(3) 3次(7・8時間目) 留学生との交流の準備をしよう

7・8時間目は、直後に迫った留学生との交流に向けて、自分の原稿を作成する時間とした。今まで学習してきたこ

とを生きし、自分のお気に入りの場所を留学生に紹介できるように英文を作成していった。作成した英文については、本時には見ないで言えるようにしようと声掛けを行った。また、相手に情報を伝えやすくするためや、原稿を見ないようにするために、紹介する場所の写真なども用意し、発表の質を高めていた。原稿については教員が添削を行ったあと、本番に向けて友達とリハーサルを行うことで、内容や発音、伝え方などを確認していた。以下は生徒の考えた原稿である。

Hello. My name is _____ Please call me _____
 I live in Uonuma. There is a good library. It is Koide library. (picture) There are many interesting books in the library. I like history books.
 I sometimes go to the library. There is a study room in the library. We can study there.
 If you come to Koide, I hope you'll enjoy Koide library.

Hello. My name is _____
 I live in Nagaoka. There is a good park in Nagaoka. It is Yukyuzan park.
 There is a hometown museum in the park. (picture) We can learn the Nagaoka's history and Nagaoka's historical persons there.
 In the park, we can see small animals. It's cute. I like animals.
 If you come to Nagaoka, I hope you'll enjoy Yukyuzan park.

(4) 3次(9時間目) 留学生と交流しよう

本時は生活班である4人班をつくり、それぞれの班で5名来校した留学生(国籍：フランス、マレーシア、バングラデシュ、中国2名)のうち2人と交流を行った(図5)。それぞれ10分程度の交流を行った。はじめは生徒からのお気に入りの場所紹介を行い、その後留学生の方から、留学生自身の出身国のお気に入りの場所を紹介していった。生徒たちは、自分たちの考えてきた場所について、①内容(情報の発信と受信)②やりとり(質問や応答)③態度(アイコンタクトや反応、笑顔等)の3つのポイントを意識して、活動に取り組んだ。交流の合間で留学生がいない時間は、班で振り返りを行い、課題や改善点を話し合ったり、他の班の様子を観察したりして、直後の交流に生かしていた。

次の時間に、単元の振り返りとして生徒にアンケートを行った。結果は以下の通りである。

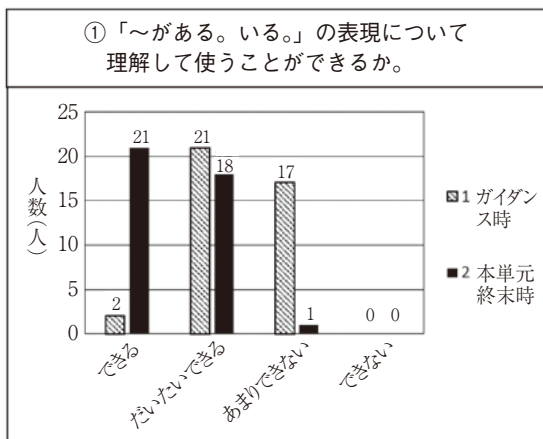
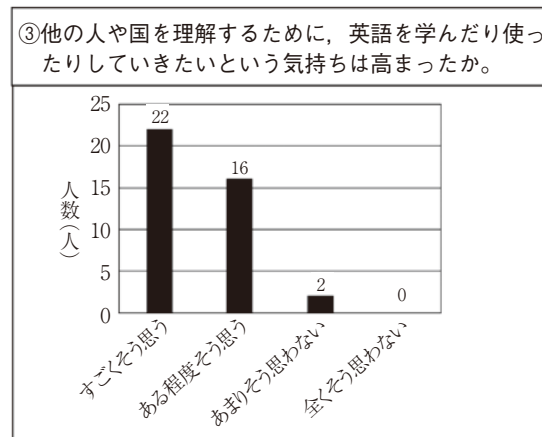
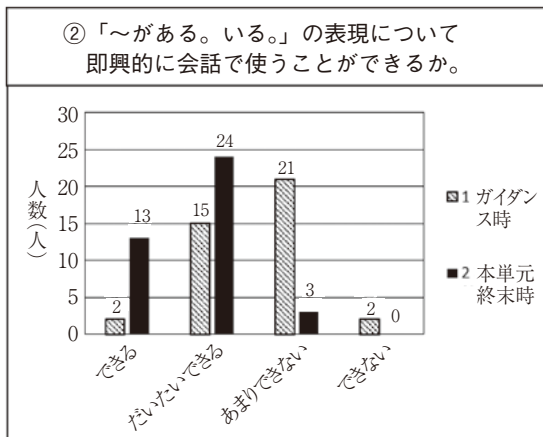


図5 留学生との交流の様子



5 考察

(1) There is /are の基本的な文構造や意味を理解し、活用できる知識・技能を身に付ける

4の(1)で示したワークシートから、There is /are ~の文の理解し、活用につなげていた様子が伺える。また、その授業後の振り返り用紙では「友達の好きな場所や、近くにあるものが知れて良かった。」「There (is/are) で話すことができて良かった。」「There is/areの後に、新情報がくるということが分かった。」とのコメントが見られた。単元終末時のアンケートについても、「『~がある。いる。』の表現について理解して使うことができるか。』の質問に対して、「できる」「だいたいできる」の肯定的評価が98%であった。これらのことから、この資質・能力は育まれたと考える。

(2) 相手を意識して自分のお気に入りの場所を表現したり相手の話に応じて即興的に考えを伝えあったりすることができる

留学生に地元のお気に入りの場所を紹介しようという課題に対して、自分で文章を書き、できる限り英文を覚えて紹介しようとする姿が留学生との交流中に見られた。また、「『~がある。いる。』の表現について即興的に会話で使うことができるか。』については、肯定的評価が93%であった。しかし、十分できると答えている生徒はまだ少数であることから、今後も場面を捉えて指導をしていく必要がある。

(3) 自分と世界や他者をつなぐために、英語で主体的に伝え合ったり、英語を学んだりしていく

留学生との交流の振り返りでは、以下のような感想が出された。

- ・留学生さんと交流してある程度聞き取ることができた。分からなくても、もう一度言ってもらったりしながらコミュニケーションがとれたのでよかった。また、時間を最後まで使い会話をすることができた。今回の交流では、1年生の頃とは違い、積極的に質問や受け答えをすることができた。
- ・今回の授業では1年生の時に大切にしていた、アイコンタクト、うなずく、笑顔で話すということができて良かった。しかし、質問を受けるときに、意味が分からなくてとまどってしまう場面や、答えがあやふやになって会話がこわれてしまう場面があったので、これからはリスニングなどの練習を行ってやりとりになれるようにしていきたいと感じた。
- ・留学生と話していると、難しく分からなくなったこともたくさんあったが、仲間と協力しながらなんとかできたのでよかった。色々な国の人が話す英語を聞いてうれしかったし勉強になった。違う国の人と英語でつながれるのはすばらしいことなので、もっと英語の勉強を頑張りたい。

このように、1年生の時に比べて技能等の向上を実感し、さらに前向きに学習に取り組んでいこうとする生徒の回答が見られた。また、アンケート項目③の「他の人や国を理解するために、英語を学んだり使ったりしていきたいという気持ちは高まったか。」という質問に対しても、肯定的評価が95%であった。これらのことから、この資質・能力は育まれたと考える。

6 今後の課題

英語という道具を介して身近なことを考えたり、世界のことを考えたりしながら、他者と関わっていくことが、外国語科の資質・能力の育成には重要だと考える。学習する言語材料や身近なトピックなどをうまく関連させながら、今後も自分と世界と他者をつなげる単元開発を継続して行っていきたい。そして、グローバル社会の中で、英語を使って自分を表現できる生徒を育てていきたいと考える。

7 引用・参考文献

- アンバサダーゆかり『英語で学ぶ世界・ケニア編』パレードブックス、2009
- 上越教育大学学校教育実践研究センター『教育実践研究』第27集、2017
- 新潟大学教育学部附属長岡校園『新たな世界を創り出す子供をはぐくむ－「統合的な学び」の実現を通して－第1年次』2017
- 樋口忠彦、緑川日出子、高橋一幸『すぐれた英語授業実践－よりよい授業づくりのために』大修館書店、2007
- 松村昌紀『英語教育を知る58の鍵』大修館書店、2009
- 村野井仁『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』大修館書店、2006
- 文部科学省『外国語ワーキンググループにおける審議のとりまとめ』2016
- 文部科学省『中学校学習指導要領』2017